

スーパーマーケット販売統計調査資料

2024年6月実績 速報版
5月実績 確報版

(2024年7月22日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
非食品				日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
その他				テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2024年7月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2024年6月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	102,897,946	100.0%	104.7%	103.8%
食品合計	93,212,201	90.6%	105.0%	104.0%
生鮮3部門合計	33,858,587	32.9%	104.8%	103.8%
青果	14,152,004	13.8%	106.3%	105.4%
水産	8,344,865	8.1%	104.9%	103.9%
畜産	11,361,717	11.0%	102.9%	101.8%
惣菜	11,376,877	11.1%	105.3%	104.0%
日配	21,168,354	20.6%	103.0%	102.1%
一般食品	26,808,383	26.1%	106.7%	105.6%
非食品	6,875,693	6.7%	101.7%	101.3%
その他	2,810,052	2.7%	104.4%	104.5%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,898,824	43	105.5%	104.7%
関東地方	38,066,311	73	105.2%	104.2%
中部地方	12,590,460	53	104.5%	103.8%
近畿地方	22,792,192	44	102.7%	101.9%
中国・四国地方	10,324,357	34	105.5%	104.0%
九州・沖縄地方	5,225,803	23	104.9%	104.9%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	527,472	46	100.3%	100.3%
4~10店舗	4,445,438	84	102.9%	102.6%
11~25店舗	8,605,921	49	103.3%	103.7%
26~50店舗	17,774,834	45	104.5%	103.5%
51店舗以上	71,544,282	46	105.1%	104.0%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	101,477,634
総店舗数 (店舗)	8,370	店舗平均月商 (万円)	12,294
総売場面積 (㎡)	13,969,146	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.4

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2024年7月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2024年5月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	103,932,600	100.0%	102.6%	101.7%
食品合計	95,560,357	91.9%	102.8%	101.8%
生鮮3部門合計	35,664,101	34.3%	102.6%	101.6%
青果	14,697,403	14.1%	105.2%	104.3%
水産	8,832,917	8.5%	102.3%	101.3%
畜産	12,133,781	11.7%	99.8%	98.7%
惣菜	11,566,316	11.1%	103.9%	102.6%
日配	21,376,645	20.6%	101.8%	100.7%
一般食品	26,953,296	25.9%	103.6%	102.7%
非食品	6,180,715	5.9%	99.4%	98.9%
その他	2,191,581	2.1%	103.2%	102.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	14,055,868	43	102.1%	101.4%
関東地方	38,400,226	73	103.6%	102.6%
中部地方	12,807,456	53	103.1%	101.5%
近畿地方	22,933,144	44	100.9%	100.5%
中国・四国地方	10,497,847	34	101.9%	101.0%
九州・沖縄地方	5,238,058	23	100.9%	100.5%

保有店舗数別集計

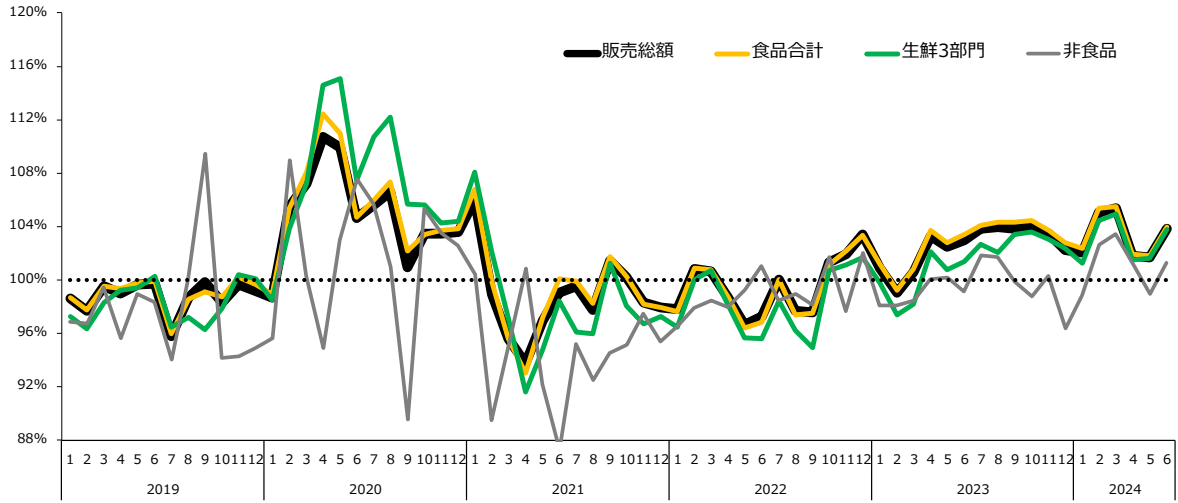
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	537,105	46	97.3%	99.1%
4~10店舗	4,515,374	84	100.8%	101.0%
11~25店舗	8,739,097	49	100.7%	101.5%
26~50店舗	18,009,932	45	102.6%	101.4%
51店舗以上	72,131,091	46	102.9%	101.8%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	102,465,352	
総店舗数 (店舗)	8,368	店舗平均月商 (万円)	12,420	
総売場面積 (㎡)	13,966,667	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.4	

※売上高は税抜金額

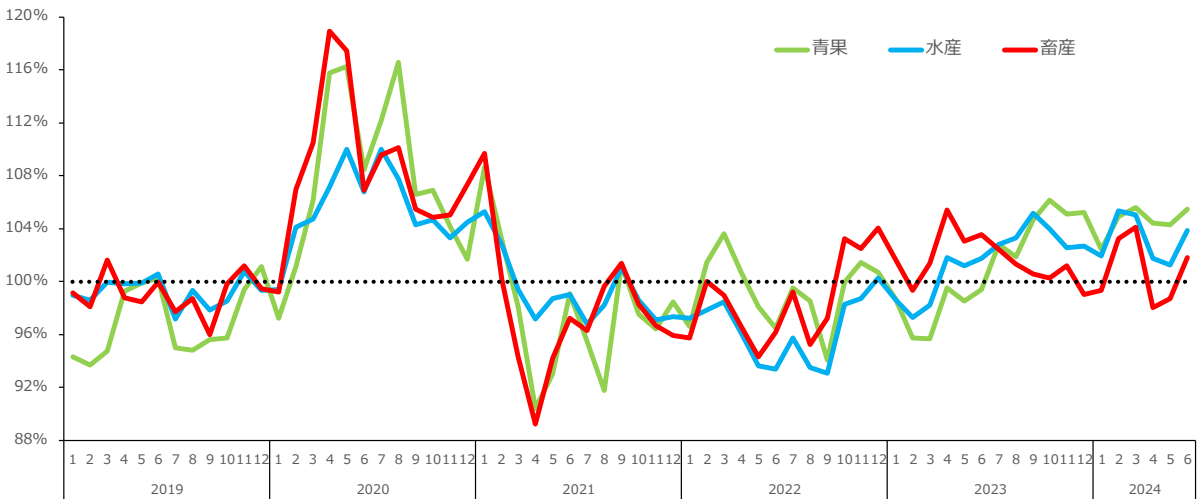
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査 前年同月比（既存店）推移 2019年1月～

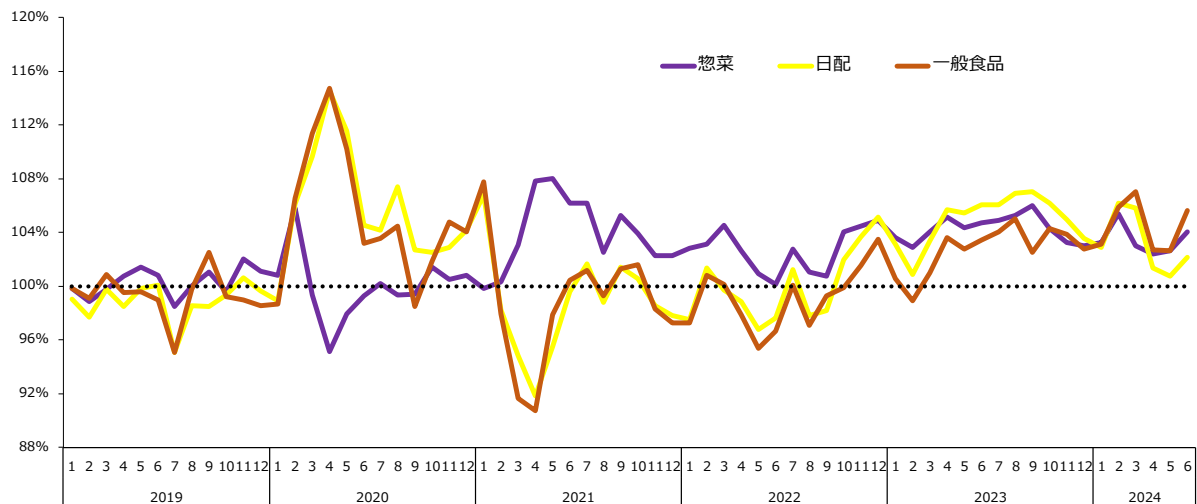
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2024年6月実績は速報版

2024年6月 エリア別気候状況

6月の気温：北・東日本でかなり高かった

上旬：西日本は低かった。

中旬：北日本、東日本、西日本ではかなり高かった。

下旬：北日本、沖縄・奄美ではかなり高かった。東日本、西日本では高かった。

2023年6月との比較：上旬はやや低くなった地域が多かったが、中旬は北日本と東日本日本海側で高くなった。

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2024年6月 (今年)			2023年6月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	0.4	3.1	1.6	1.0	2.1	2.8	-0.6	1.0	-1.2
太平洋側	0.3	3.8	2.5	2.2	2.3	3.0	-1.9	1.5	-0.5
東日本 日本海側	-0.2	3.2	1.5	0.8	1.0	1.8	-1.0	2.2	-0.3
太平洋側	-0.1	1.8	1.2	0.6	1.2	1.1	-0.7	0.6	0.1
西日本 日本海側	-0.5	2.0	0.9	-0.1	1.1	1.3	-0.4	0.9	-0.4
太平洋側	-0.5	1.0	0.6	-0.7	0.3	0.9	0.2	0.7	-0.3

平年差

+2°C以上
+1°C以上

-2°C以上
-1°C以上

前年差

+2°C以上
+1°C以上

-2°C以上
-1°C以上

6月の日照時間：北・東日本太平洋側と東日本日本海側でかなり多かった

上旬：東日本日本海側、東日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側では多かった。

中旬：北日本太平洋側、東日本日本海側、東日本太平洋側、西日本日本海側ではかなり多かった。北日本日本海側、西日本太平洋側では多かった。

下旬：北日本太平洋側では多かった。西日本日本海側、西日本太平洋側ではかなり少なかった。

2023年6月との比較：上旬から中旬にかけて、前年より多くなった地域が多かった。下旬は西日本で少なくなった。

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2024年6月 (今年)			2023年6月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	108	133	102	80	131	111	28	2	-9
太平洋側	96	169	128	107	124	110	-11	45	18
東日本 日本海側	107	193	108	104	110	106	3	83	2
太平洋側	119	171	91	82	118	105	37	53	-14
西日本 日本海側	116	160	46	83	128	73	33	32	-27
太平洋側	128	136	48	72	111	96	56	25	-48

平年差

平年比150%以上
平年比125%~149%

平年比50%以下
平年比51%~75%

前年差

+50%以上
+25~49%

-50%以下
-25~-49%

6月の降水量：北日本太平洋側でかなり少なかった。一方、東日本太平洋側でかなり多かった

上旬：ほぼ平年並みだった。

中旬：東日本太平洋側では多かった。北日本太平洋側、東日本日本海側ではかなり少なかった。

下旬：東日本太平洋側ではかなり多かった。北日本日本海側、東日本日本海側、西日本日本海側、西日本太平洋側では多かった。

2023年6月との比較：上旬は全国的にかなり少なく、中旬は北日本太平洋側と東日本日本海側で少なく、東日本太平洋側と西日本で多くなった。

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2024年6月 (今年)			2023年6月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	80	60	143	226	55	166	-146	5	-23
太平洋側	90	25	106	201	97	99	-111	-72	7
東日本 日本海側	67	19	134	492	97	122	-425	-78	12
太平洋側	98	137	203	600	62	76	-502	75	127
西日本 日本海側	72	82	143	229	25	116	-157	57	27
太平洋側	107	118	158	382	38	61	-275	80	97

平年差

平年比150%以上
平年比125%~149%

平年比50%以下
平年比51%~75%

前年差

+50%以上
+25~49%

-50%以下
-25~-49%

気象庁ホームページ「2024年6月の気候」を参考に事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2024年7月調査結果（6月実績）
（2024年7月22日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

7月調査（6月実績）結果概況

景況感は小幅に改善

6月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から+3.9の48.2、見通し判断が前月から+3.3の44.8と共に前月に比べ小幅に改善した。

経営動向調査では、売上高DI、収益DIは共に前月から大幅に上昇した。生鮮品仕入原価DIと食品仕入原価DIは引き続き高水準を維持するなか、客単価DIと来客数DIが上昇したことが要因となった。

カテゴリー動向調査では、すべてのDIが前月より上昇、水産、畜産、一般食品では二桁の上昇を記録した。単価の上昇傾向が続くなか、気温が高めに推移し夏物・涼味商材が好調、土日が1日ずつ多い曜日めぐりによる買上点数の増加、米の供給減による特需と単価上昇などで売上が伸長した。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査は、ここ数か月は悪化傾向が続いていたが、現状判断、見通し判断共に、前月から改善をみせた。（長期傾向はP11参照）

これまでの値上げによる一品単価の上昇が一巡しつつあり、日配など、影響が大きかったカテゴリーでの単価上昇により勢いは落ち着きつつある。一方で青果の相場高や、畜産や水産では円安の影響等による高値傾向が続き、訴求が難しい状況が続いている。また気温の変化が大きく、線状降水帯の発生による豪雨など、気候変動による販売動向への影響が一層増大している。物流問題も重なり生鮮品を中心に調達への懸念が高まり、調査に寄せられるコメントからみると、このような変化の大きい外部環境への対応力が販売の好不調をわける要因となるとみられる。産地に足を運ぶなど開発や連携の強化、柔軟な対応力が求められる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：48.2 (+3.9)
前月：44.3

消費者購買意欲DI
当月：47.1 (+3.5)
前月：43.6

周辺地域 競合状況DI
当月：46.1 (+1.4)
前月：44.7

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：48.2 (+1.6)
前月：46.6

見通し判断

景気判断DI
当月：44.8 (+3.3)
前月：41.5

消費者購買意欲DI
当月：45.1 (+1.9)
前月：43.2

周辺地域 競合状況DI
当月：43.0 (+0.4)
前月：42.6

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：46.9 (+0.8)
前月：46.1

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：8.7 (+8.8)
前月：-0.1

客単価DI
当月：11.5 (+5.6)
前月：5.9

来客数DI
当月：1.0 (+4.8)
前月：-3.8

収益DI
当月：5.4 (+7.0)
前月：-1.6

販売価格DI
当月：18.5 (-1.3)
前月：19.8

生鮮品仕入原価DI
当月：18.0 (-2.3)
前月：20.3

食品仕入原価DI
当月：19.6 (+0.5)
前月：19.1

カテゴリー動向

青果DI
当月：17.1 (+6.6)
前月：10.5

水産DI
当月：7.2 (+11.5)
前月：-4.3

畜産DI
当月：0.3 (+12.3)
前月：-12.0

惣菜DI
当月：13.6 (+6.2)
前月：7.4

日配DI
当月：1.9 (+6.2)
前月：-4.3

一般食品DI
当月：13.4 (+10.9)
前月：2.5

非食品DI
当月：-3.3 (+7.3)
前月：-10.6

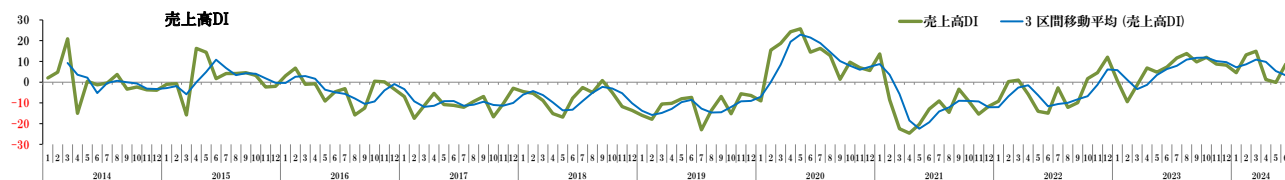
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月から大幅に上昇し、プラス圏を回復

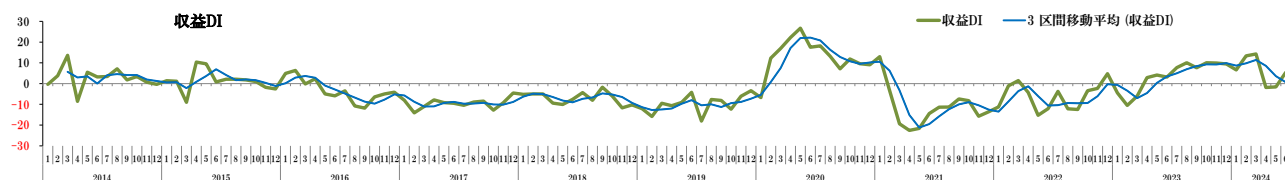
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	4.0	28.3	37.6	24.3	5.8	-0.1
売上高 (当月)	2.0	17.8	32.2	39.5	8.6	8.7



2. 収益DI

前月から大幅に上昇し、プラス圏を回復

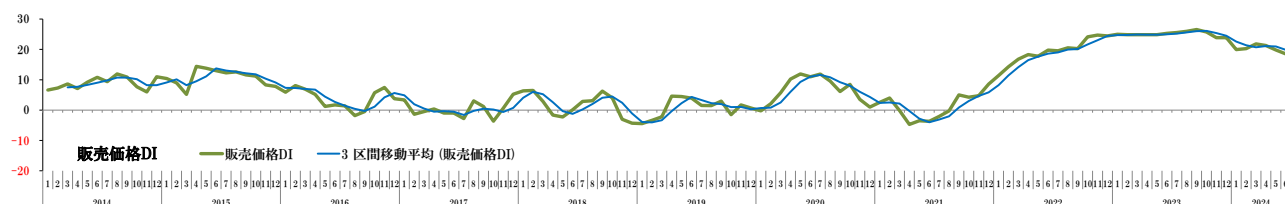
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	5.3	30.4	35.7	22.8	5.8	-1.6
収益 (当月)	2.7	23.8	34.0	27.9	11.6	5.4



3. 販売価格DI

前月から横ばい傾向で引き続き高水準で推移

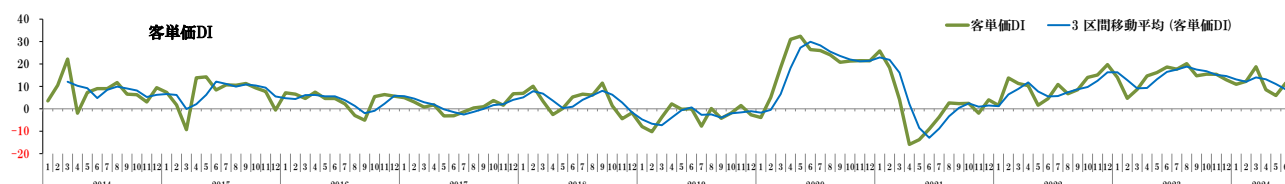
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	2.3	22.0	69.9	5.8	19.8
販売価格 (当月)	0.0	1.3	29.8	62.3	6.6	18.5



4. 客単価DI

前月から大幅に上昇し、プラス幅を拡大

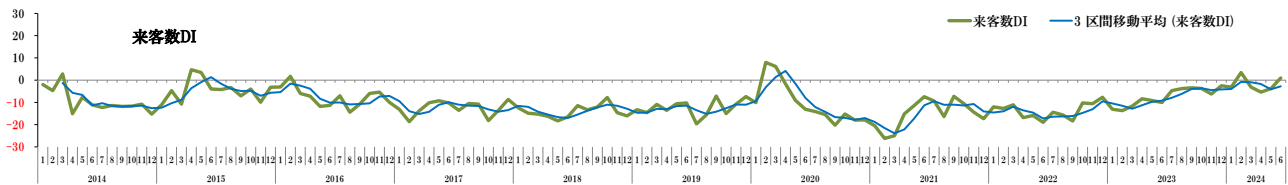
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.8	16.6	39.6	40.2	1.8	5.9
客単価 (当月)	0.7	10.8	34.5	50.0	4.1	11.5



5. 来客数 DI

前月から上昇、プラス圏を回復

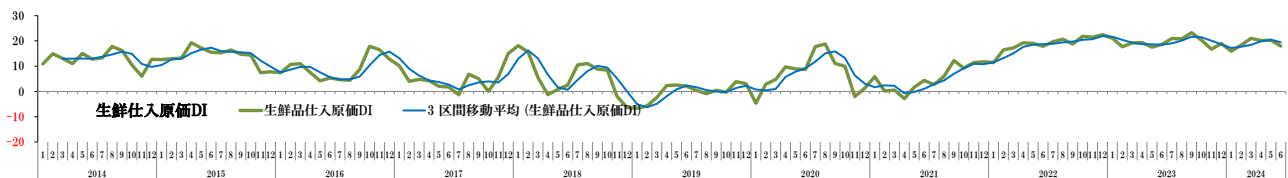
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	4.7	32.9	37.6	22.4	2.4	-3.8
来客数 (当月)	2.7	24.3	41.9	28.4	2.7	1.0



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から小幅に下落も、二桁プラス水準続く

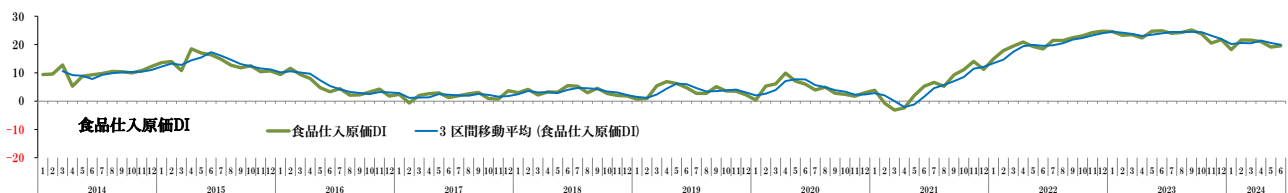
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.6	3.0	21.3	65.1	10.1	20.3
生鮮仕入原価 (当月)	1.4	2.1	28.1	60.3	8.2	18.0



7. 食品仕入原価 DI

前月水準で推移、38か月連続プラス圏

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.0	6.0	19.9	65.7	8.4	19.1
食品仕入原価 (当月)	0.0	3.5	23.1	65.0	8.4	19.6

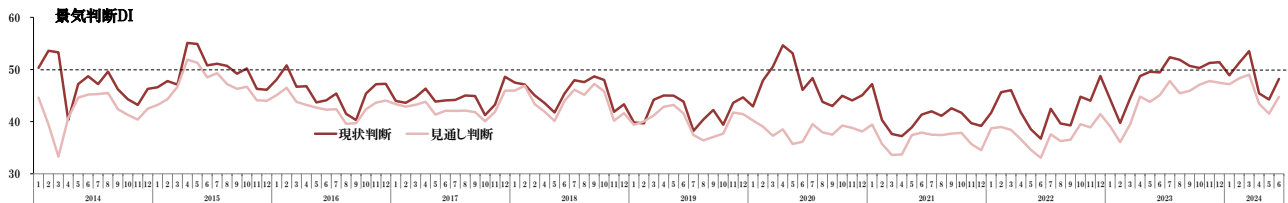


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断、見通し判断共に改善

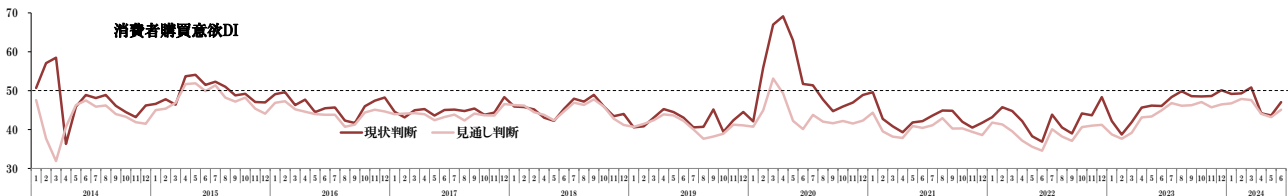
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	2.3	27.0	63.2	6.3	1.1	44.3
【現状】景況判断 (当月)	0.0	19.0	69.3	11.8	0.0	48.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	3.4	33.3	58.0	4.0	1.1	41.5
【見通し】景況判断 (当月)	1.3	25.5	66.0	7.2	0.0	44.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に改善

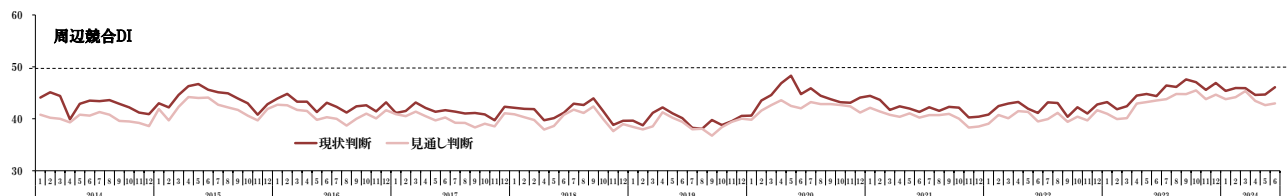
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.2	28.9	65.3	3.5	1.2	43.6
【現状】購買意欲 (当月)	0.0	20.9	69.9	9.2	0.0	47.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.2	31.2	62.4	4.0	1.2	43.2
【見通し】購買意欲 (当月)	0.0	26.1	67.3	6.5	0.0	45.1



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は小幅に改善、見通し判断は横ばい

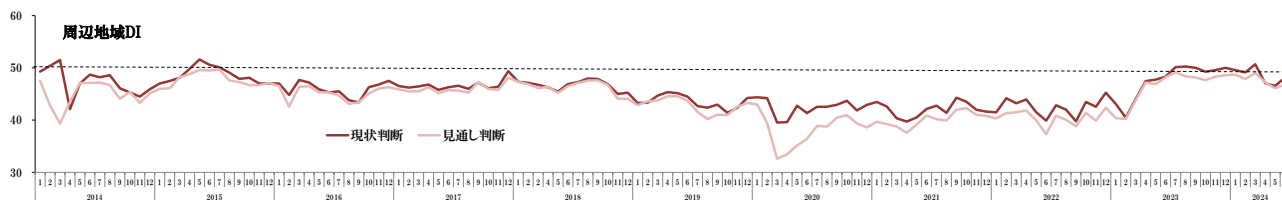
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.3	20.7	73.6	2.9	0.6	44.7
【現状】競合状況 (当月)	0.7	17.6	78.4	3.3	0.0	46.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	3.5	26.0	67.6	2.3	0.6	42.6
【見通し】競合状況 (当月)	3.3	22.9	72.5	1.3	0.0	43.0



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断は小幅に改善、見通し判断は横ばい

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.0	18.4	77.0	4.6	0.0	46.6
【現状】地域景気(当月)	0.0	11.9	83.4	4.6	0.0	48.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.0	20.8	74.0	5.2	0.0	46.1
【見通し】地域景気(当月)	0.7	15.2	80.1	4.0	0.0	46.9

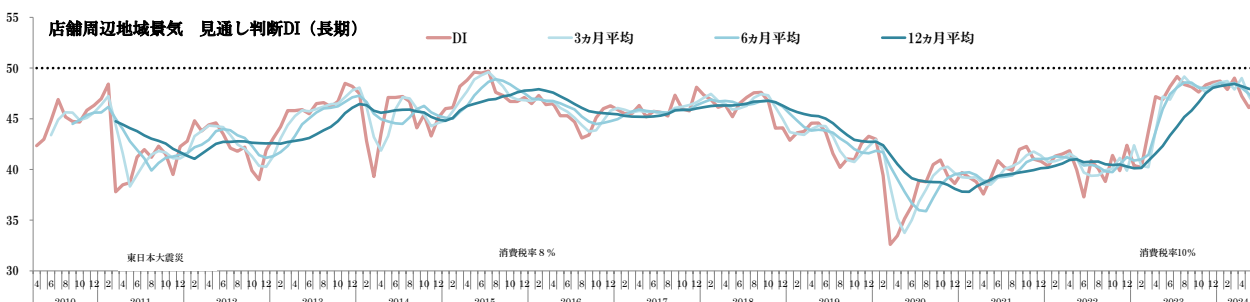
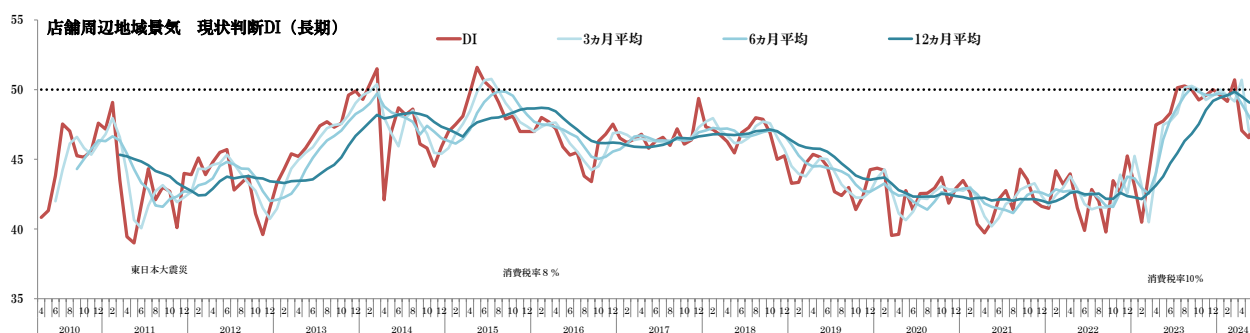


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

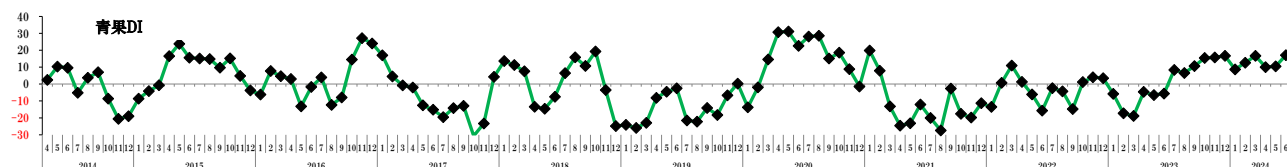
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した。感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破、その後も高水準を維持したものの24年4月に一転して大きく悪化した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：17.1（好調）

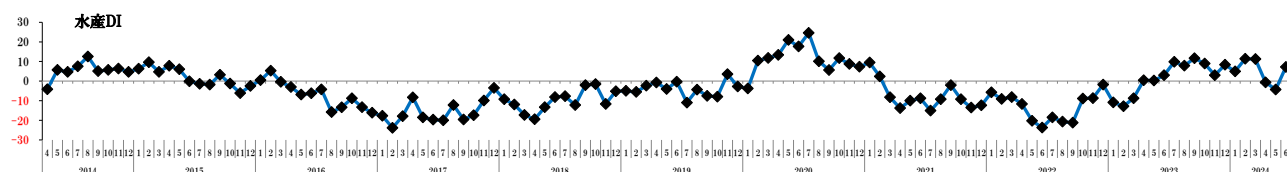
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	1.8	15.7	29.5	44.6	8.4	10.5
青果（当月）	1.4	10.3	21.9	51.4	15.1	17.1



引き続き天候不順により相場は高値傾向で推移し、一品単価が高水準にあるなか、買上点数も増加傾向により好調となった。キャベツや白菜などの葉物類の出荷が落ち着きはじめ、動きがよくなった。土物、根菜類も好調となった。気温が高めに推移し、サラダ関連需要が高まりトマトが好調。アスパラや梅は不作で相場高、点数を減らした店舗が多かった。果実は国産、輸入共に相場高傾向が続く。メロンやスイカなどカットフルーツは好調も、さくらんぼの不作など国産は動きが悪く、キウイフルーツやバナナなどの輸入果実は比較的好調となった。

2. 水産DI：7.2（やや好調）

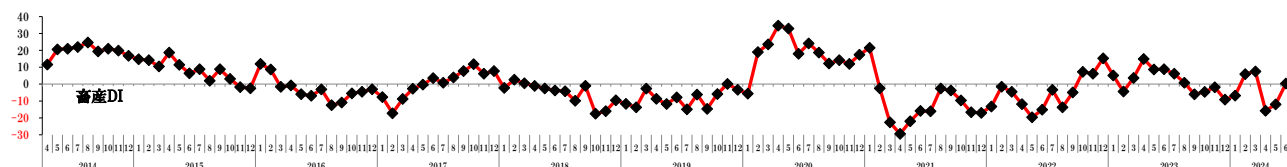
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	8.9	32.0	31.4	23.1	4.7	-4.3
水産（当月）	4.8	18.5	28.1	40.4	8.2	7.2



燃料費高騰や不漁などで引き続き相場高傾向にあるなか、土日が1日ずつ多い曜日巡りを追い風に、やや好調となった。刺身類は価格が安定しているマグロやカツオなどの魚種を中心に好調。ちりめん類の不漁で価格が高騰している干物類は、販売数量が回復した店舗もみられた。もずくなどの海藻類は引き続き好調に推移、高い気温により、うなぎ類は好調に推移した。一方でカニやエビ、などの冷凍水産品、不漁により高値のイカは動きが悪かった。

3. 畜産DI：0.3（やや好調）

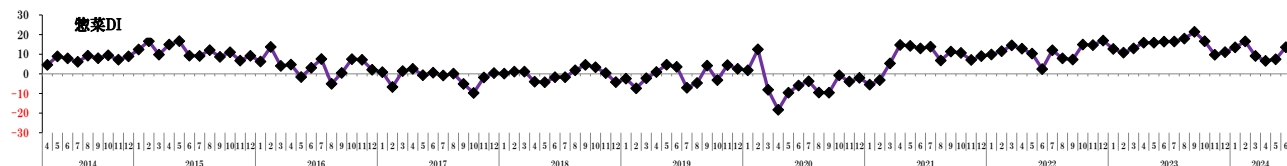
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	12.4	43.8	26.0	14.8	3.0	-12.0
畜産（当月）	4.8	30.6	29.3	29.3	6.1	0.3



土日が1日ずつ多い曜日巡りを追い風に販売は回復したが、全般的な相場高傾向が続き販促しづらく、値ごろ感のある鶏肉への需要シフトが強まり、単価の下落傾向は継続。牛肉は父の日用のステーキ、気温上昇により週末の焼肉用など一部で需要は回復したが、引き続き和牛など高単価商品を中心に低迷が続き苦戦している。豚肉は相場高が続くものの、小間切れや豚しゃぶ用など値ごろな商材を中心に需要の回復も。鶏肉は引き続き販売が伸長している。加工肉は好不調の判断がわかれている。

4. 惣菜DI：13.6（好調）

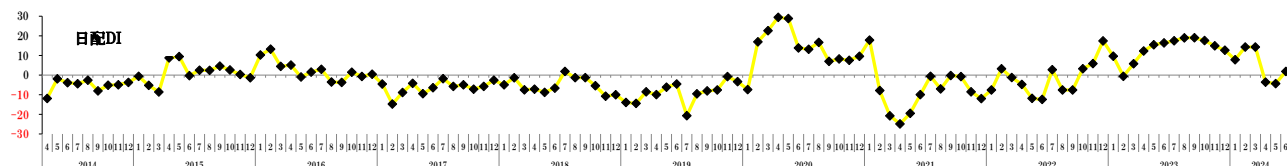
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.0	12.5	42.9	35.1	6.5	7.4
惣菜（当月）	1.4	6.9	35.9	47.6	8.3	13.6



引き続き好調で、単価が上昇している米飯類、おかず類が牽引している。寿司は父の日関連では好調となったが、それ以外の時期は伸び悩んだというコメントが多かった。青果の相場高を受け、和惣菜やサラダ類が好調に推移。気温が高めに推移し、涼味系の麺類や夏を意識した惣菜、自宅での調理を敬遠する指向により、夕方以降の揚げ物類が好調というコメントも多くみられた。

5. 日配DI：1.9（やや好調）

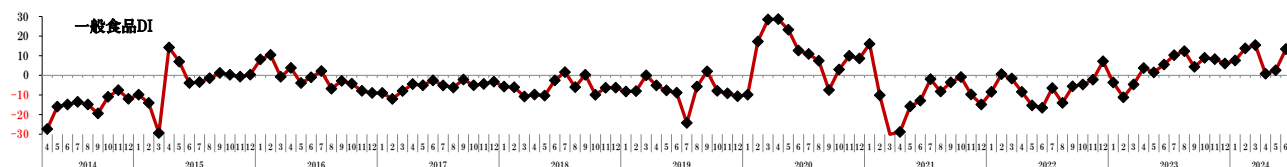
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	7.1	30.2	39.1	20.1	3.6	-4.3
日配（当月）	3.4	23.4	40.0	28.3	4.8	1.9



値上げの影響が一巡し、単価伸び率は鈍化傾向がみられるなか、土日が1日ずつ多い曜日巡りを追い風に買上点数が伸長しプラスに。牛乳やチーズなど乳製品、パン類は引き続き堅調に推移した。気温上昇によりアイス・氷菓や涼味麺などが好調。納豆や漬物などの和日配は点数減の影響が大きい。オレンジ果汁の原材料不足による影響を指摘するコメントもみられた。卵は、前年高騰の反動が続いている。

6. 一般食品DI：13.4（好調）

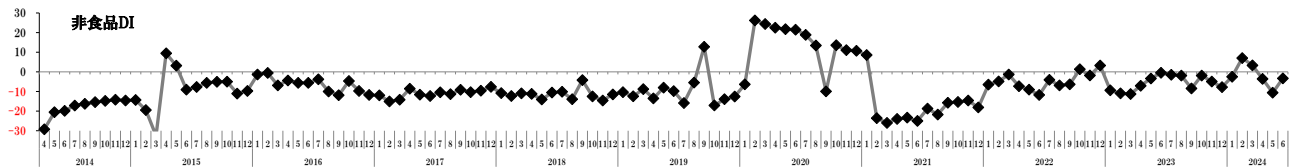
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	3.6	21.4	41.7	28.0	5.4	2.5
一般食品（当月）	2.7	10.3	33.6	37.7	15.8	13.4



土日が1日ずつ多い曜日巡りを追い風に買上点数が伸長したほか、米類は、供給不足報道により欠品する店舗もみられ、特売を休止するなどの対応により単価もアップし、大幅に伸長した。レンジ米飯、レトルト米飯にも特需が発生した。気温が高く、飲料や酒類が好調、そうめんつゆなど涼味麺関連、焼肉関連商材の動きがよかった。調味料などは再値上げの影響で単価増が続き、点数が維持できている店舗では売上を確保した。菓子類も引き続き好調とのコメントが多い。

7. 非食品DI：-3.3（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	10.9	37.6	35.8	14.5	1.2	-10.6
非食品（当月）	9.0	26.4	39.6	18.8	6.3	-3.3



マスクやハンドソープ、除菌関連など衛生用品の需要低下の影響が一巡するなか、単価が上昇したトイレトペーパー・キッチンペーパーなど紙製品は引き続き好調に推移した店舗が多い。

気温上昇により虫ケア用品や防虫剤などの動きがよかった。ドラッグストアなど競合店との価格競争の厳しさを指摘するコメントが多くみられた。

カテゴリ別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2024年7月調査（6月実績）キーワードTOP3

1. 土日が1日ずつ多い曜日巡り
2. 気温が高く関連商材が好調
3. 米の供給不足報道、特売休止

（参考）2023年7月調査（6月実績）キーワードTOP3

1. 値上げによる数量減が収まる傾向
2. 高い気温で推移
3. 低価格商品への需要シフト

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

6月実績速報版 153社
 5月実績確報版 174社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp